

2022年2月1日

各 位

会 社 名 株式会社 AFC-HD アムスライフサイエンス
代表者名 代表取締役会長 浅山 雄彦
(コード：2927、東証 JASDAQ)
問合せ先 取締役会長室長 南方 茂穂
(TEL. 054-281-5238)

会 社 名 株式会社 日本予防医学研究所
代表者名 代表取締役会長 浅山 忠彦
(AFC-HD グループ)

富山大学 和漢医薬学総合研究所との共同研究の研究成果が、
米国科学誌 **Phytochemistry** に掲載されました

株式会社 AFC-HD アムスライフサイエンス（本社：静岡県静岡市、会長：浅山雄彦）のグループ会社である株式会社日本予防医学研究所（本社：静岡県静岡市、会長：浅山忠彦）は、富山大学 和漢医薬学総合研究所の森田洋行教授らの研究グループとの共同研究において、ベトナム産ショウガ科植物に抗炎症活性がある可能性が高いことを、初めて科学的に示しましたので、お知らせいたします。

なお、この研究成果は米国科学誌 **Phytochemistry** に掲載されました。

株式会社日本予防医学研究所は、富山大学 和漢医薬学総合研究所の森田洋行教授らの研究グループとの共同研究により、ベトナム産ショウガ科植物 *Kaempferia marginata* の根の有機溶媒抽出液に、炎症モデル細胞の一酸化窒素の産生を抑制する活性があること、そしてその抽出液にはピマラン型ジテルペノイドに分類される化合物が多数含まれ、その多くに炎症モデル細胞の一酸化窒素の産生を抑制する活性があることを明らかにしました。

本植物の根は、ベトナムでは魚料理のスパイスとして広く用いられると同時に、そのアルコール抽出液は、筋肉痛・腰痛といった炎症を伴う痛みの緩和の目的で伝統的に使用されてきましたが、炎症改善に関する科学的解析はなされていませんでした。細胞内における一酸化窒素の産生は、炎症の一つの指標であり、その産生を抑制することは炎症の緩和に繋がります。

このことから、今回の研究成果は本植物の根に抗炎症活性がある可能性が高いことを科学的に初めて示したことになります。今回、本植物に抗炎症活性がある可能性が高まったことにより、本植物の根の機能性食品や化粧品などへの応用が期待されます。

* 学術誌掲載情報 (<https://www.sciencedirect.com/science/article/abs/pii/S0031942222000255>)

学術誌名：Phytochemistry 196(2022)Article 113109.

タイトル：Marginols A-H, unprecedented pimarane diterpenoids from *Kaempferia marginata* and their NO inhibitory activities

著者：Kiep Minh Do, Takeshi Kodama, Min-Kyoung Shin, Lien Huong Ton Nu, Hien Minh Nguyen, Son Van Dang, Ken-ichi Shiokawa, Yoshihiro Hayakawa, Hiroyuki Morita.